

G-4

アカン語における自然発生的状態変化を表す動詞の構文交替¹

古閑恭子 (高知大学)

koga@kochi-u.ac.jp

要旨

アカン語 (Akan: ニジェール・コンゴ語族クワ語派) の二項動詞文には、項の現れる位置が入れ替わるだけで、ほぼ同じ意味を表すものがある。本発表では一次資料を用い、この現象に動詞および項のどのような意味的要素が関わっているか検討する。このような構文交替が起こる動詞には、発散、詰まり、増減、存在を表す動詞が見つまっている。これらの動詞の構文交替を例示し、どのような場合に構文交替が可能であるか検討する。これらの動詞文において、まず、動詞が自然発生的ないし生理的状态変化もしくは状態を表すこと、次に、位置が入れ替わる名詞句が、状態変化する物質・物体およびその状態変化が起こる場所の関係であること、さらに、状態変化が両方の名詞句に及んでいると捉えられることを指摘し、以上の条件がそろった場合構文交替が可能であると考察する。

1. はじめに

アカン語 (Akan: ニジェール・コンゴ語族クワ語派) の二項動詞文には、項の現れる位置が入れ替わるだけで、ほぼ同じ意味を表すものがある。この現象に、動詞および項のどのような意味的要素が関わっているか検討する。

アカン語の基本語順は SVO で、代名詞以外は格標識がなく、語順が統語機能を主に果たす。動詞の多くは同形で自動詞にも他動詞にも使え、その場合自動詞用法の主語が他動詞用法の目的語に対応する (使役交替)。他動詞文(1.a)で主語は行為者で目的語は対象である。一方自動詞文(1.b)では対象が主語で、行為者は現れない (例はアカン語ファンテ方言 Fante、Osam 2008: 52)。自動詞文では、自発的に変化が起こったことを表す (反使役化、影山編 2001: 29)。

(1) a. Araba bú-u abaá=nó.

アラバ 折る-PAST 枝=DEF

「アラバはその枝を折った。」

b. Abaá=nó bú-i.

枝=DEF 折る-PAST

「その枝は折れた。」

一方、意味的には自動詞であるものに、類似した構文交替が起こる。Osam (2008)はアカン語の構文交替の1つとして(2)を挙げる。(2.a)と(2.b)は動詞をはさんで名詞句の位置が入れ替わっているが、ほぼ同じ意味を表し、両者の違いは、どちらの名詞句に焦点を当てるかの違いによるものである (例はアカン語ファンテ方言、Osam 2008: 54)。

(2) a. Banyíń nó=hó bɔn dwáńsé. b. Dwáńsé bɔn banyíń nó=hó.

男 3SGPOSS=体 臭う.STA 小便 小便 臭う.STA 男 3SGPOSS=体

「男は小便の臭いがする。」

¹ 本発表は科学研究費補助金 (基盤 C 15K02519) による成果の一部である。

Osam(2008)は(2)をアカン語の構文交替の1つとして例示するにとどまり、(1)と(2)の違いを明確に示していない。本発表ではアカン語アサンテ方言(Asante)の一次資料を用い²、どのような場合に構文交替が可能なのか検討する。具体的には、(2)のような構文交替が、発散、詰まり、増減、存在を表す動詞に起こることを例と共に示し、動詞および項のどのような意味的要素が関わっているかをみる。

2. 自然発生的状態変化を表す動詞の構文交替

2.1 発散を表す動詞

発散を表す動詞の構文交替は、発散する物質・物体を表す名詞句とその物質・物体が発散される場所を表す名詞句との間で起こる。発散を表す動詞で構文交替が起こるものには、fri「出る」、te「流れる」、fiti「漏れる」、bɔn「臭う」、yi「(臭いが) 出る」、tu「(臭いが) 出る」が見つかっている。(3)から(11)で a, b どちらの構文においても、原則として両方の名詞句が必須である。

- | | |
|---|---|
| (3) a. Nsúó f'ri ne = hwénémú.
水 出る.HAB 3SGPOSS = 鼻の孔
「彼は鼻水が出る。」 | b. Ne = hwénémú f'ri nsúó.
3SGPOSS = 鼻の孔 出る.HAB 水 |
| (4) a. Mó!gyá f'ri ne = hwénémú.
血 出る.HAB 3SGPOSS = 鼻の孔
「彼は鼻血が出る。」 | b. Ne = hwénémú f'ri mó!gyá.
3SGPOSS = 鼻の孔 出る.HAB 血 |
| (5) a. Mfí!fíré f'ri Kofí.
汗 出る.HAB コフィ
「コフィは汗が出る。」 | b. Kofí f'ri mfí!fíré.
コフィ 出る.HAB 汗 |
| (6) a. Nsúó = nó fri-i bókiti = nó mú.
水 = DEF 出る-PAST バケツ = DEF 中
「水がバケツから出た。」 | b. Bókiti = nó mú fri-i nsúó.
バケツ = DEF 中 出る-PAST 水 |
| (7) a. Mfí!fíré á-te Kofí.
汗 PERF-流れる コフィ
「コフィは汗が流れた。」 | b. Kofí á-te mfí!fíré.
コフィ PERF-流れる 汗 |
| (8) a. Nsúó = nó fití bókiti = nó.
水 = DEF 漏れる.HAB バケツ = DEF
「水がバケツから漏れる。」 | b. Bókiti = nó fití nsúó.
バケツ = DEF 漏れる.HAB 水 |
| (9) a. Dwón!só bɔn beé!má = nó hó.
小便 臭う.STA 男 = DEF 体
「その男は小便の臭いがする。」 | b. ɔbeé!má = nó hó bɔn dwón!só.
男 = DEF 体 臭う.STA 小便 |
| (10) a. Ehwá yí ne = hó.
臭い 出る.HAB 3SGPOSS = 体
「彼は臭う。」 | b. Ne = hó yí !hwá.
3SGPOSS = 体 出る.HAB 臭い |

² 母語話者 Acheampong さん、Amponsah さんに協力いただいた。この場を借りてお礼申し上げます。

- c. Nsúó=nó só hwan-n bókiti=nó mú. d. *Bókiti=nó mú hwan-n nsúó=nó só.
 水=DEF 上 減る-PAST バケツ=DEF 中 バケツ=DEF 中 減る-PAST 水=DEF 上
 「バケツの中で水が減った。」

2.4 存在を表す動詞

存在を表す動詞の構文交替は、存在する物質・物体を表す名詞句と存在する場所を表す名詞句との間で起こる。存在を表す動詞で構文交替が起こるものには、wɔ「持つ／ある」、n-di⁴「持たない／ない」、hīa「必要とする」、kita「(手に) 持つ」、kura「(手に) 持つ」、fua「(手に) 持つ」、sō「(頭に) 載せる」、soa「(頭に) 載せる」、hyɛ「着る」、fura「まとう」、bɔ「(スカーフを) 巻く」が見つかっている⁵。(22)から(33)の a, b どちらの構文においても両方の名詞句が必須である。

- (22)a. ɔ=wɔ fíé=nó.
 3SGSUB=持つ.STA 家=DEF
 「彼はその家を所有している。」
 b. Efíé=nó wɔ=no.
 家=DEF ある.STA=3SGOBJ
- (23)a. ɔ=wɔ abɛɛmá!á=nó.
 3SGSUB=持つ.STA 男の子=DEF
 「彼はその男の子を持っている。」
 b. Abɛɛmá!á=nó wɔ=no.
 男の子=DEF ある.STA=3SGOBJ
- (24)a. O=n-dí síká.
 3SGSUB=NEG-持つ.HAB お金
 「彼はお金を持っていない。」
 b. Síká n-dí ne=hó.
 お金 NEG-ある.HAB 3SGPOSS=体
- (25)a. Mi=hīá síká.
 1SGSUB=必要だ.HAB お金
 「私はお金が必要だ。」
 b. Síká hīá=me.
 お金 必要だ.HAB=1SGOBJ
- (26)a. Kofí kita síká.
 コフィ 持つ.STA お金
 「コフィがお金を持っている。」
 b. Síká kita Kofí.
 お金 持つ.STA コフィ
- (27)a. Kofí kura síká.
 コフィ 持つ.STA お金
 「コフィがお金を持っている。」
 b. Síká kura Kofí.
 お金 持つ.STA コフィ
- (28)a. O=fua pé!á.
 3SGSUB=持つ.STA 槍
 「彼は槍を持っている。」
 b. Pé!á fua=no.
 槍 持つ.STA=3SGOBJ
- (29)a. ɔ=sō adésóá.
 3SGSUB=載せる.STA 荷物
 「彼は重荷を背負っている。」
 b. Adésóá sō=no.
 荷物 載せる.STA=3SBOBJ

⁴ n-は否定辞。diはwɔ「持つ／ある」の補充形。

⁵ 以上の動詞のうち、wɔ「持つ／ある」とsō「(頭に) 載せる」は状態形でしか用いられない。

- (30)a. ɔ=soá bɔɔdée.
3SGSUB = 載せる.HAB プランテーン
「彼女はプランテーンを頭に載せる。」
- b. Bɔɔdée soá = nó.
プランテーン 載せる.HAB = 3SGOBJ
- (31)a. ɔ=hyɛ ataadée.
3SGSUB = 着る.STA 服
「彼は服を着ている。」
- b. Ataadée hyɛ = no.
服 着る.STA = 3SGOBJ
- (32)a. O=furá ntomá.
3SGSUB = まとう.HAB 布
「彼は布をまとう。」
- b. Ntomá furá = no.
布 まとう.HAB = 3SGOBJ
- (33)a. ɔ=bó dúku.
3SGSUB = 巻く.HAB スカーフ
「彼女はスカーフを巻く。」
- b. Dúku bó = nó.
スカーフ 巻く.HAB = 3SGOBJ

これらの動詞文は、対象がある場所に存在することを表すが、その状態にいたる過程は必ずしも自然発生的ではないという点で 2.1~2.3 とは異なる。(26)から(33)においては対象を別の場所から問題の場所に移す行為者が必須である（なお、この行為者が同時に存在する場所ともなっている）。

一方、(34)と(35)は、それぞれ行為の結果として対象がある場所に存在するということを表すが、構文交替は不可能である。以上の問題については今後さらなる検討が必要だが、やはり他動性の程度が関わっているのではないかと考えられる。

- (34)a. ɔ=a-gyé síká.
3SGSUB = PERF-受け取る お金
「彼はお金を受け取った。」
- b. *Síká á-gye = no.
お金 PERF-受け取る = 3SGOBJ
- (35)a. ɔ=a-nyá síká.
3SGSUB = PERF-手に入れる お金
「彼はお金を手に入れた。」
- b. *Síká á-!nyá = no.
お金 PERF-手に入れる = 3SGOBJ

3. おわりに

本発表では、アカン語における自然発生的状態変化を表す動詞、すなわち発散、詰まり、増減、存在を表す動詞の構文交替を取り上げ、動詞ないし名詞句のどのような意味的性質が構文交替に関わっているのかについて検討した。構文交替が可能となるためには、以下の3つの条件が必要なようである。

- ① 動詞が自然発生的ないし生理的状态変化もしくは状態を表す。
- ② 位置が入れ替わる名詞句が状態変化する物質・物体およびその状態変化が起こる場所の関係である。
- ③ 状態変化が両方の名詞句に及んでいと捉えられる。

このような条件を満たす場合、名詞句の位置が入れ替わっても両者の意味的關係がはっきりしているため、入れ替えが可能であると考えられる。

ただし、行為を含意する動詞文に交替が可能な例、逆に条件を満たしているようで交替できない例もあり、さらなる調査、検討が必要である。問題は、動詞の他動性に関係がありそうである。

略号

1: 一人称; 3: 三人称; DEF: 限定接語; HAB: 習慣辞; NEG: 否定辞; OBJ: 目的接語; PAST: 過去辞; PERF: 完了辞; PL: 複数; POSS: 所有接語; SG: 単数; STA: 状態辞; SUB: 主語接語

参考文献

影山太郎 (2013) 『日英対照動詞の意味と構文』 大修館書店.

小森淳子 (2013) 「スワヒリ語のいわゆる「壁塗り交替」構文について」『スワヒリ&アフリカ研究』 24, pp. 159-170.

Osam, E. K. (2008) Verbal alternations in Akan. *Journal of African Languages and Linguistics*, 29(1), pp. 49-70.